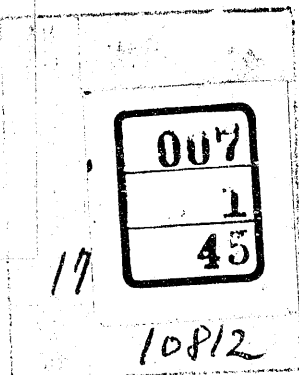
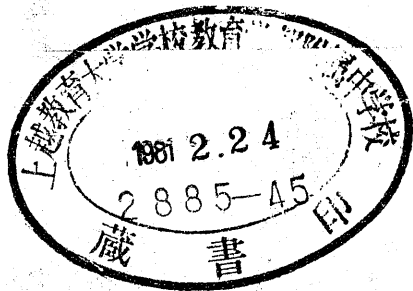


第四部

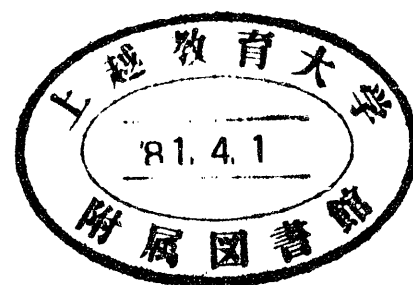
高田藩記錄

自文久二年  
至  
十一月  
月

富澤氏藏書



附属中学校



文久三年戊午

御中 謹啓

御用留

正月ヨリ

井上氏







西日

一、此書之體裁，乃仿《史記》而作，其體裁之變，乃仿《史記》而作。

後漢書

私に心を配りて、  
 乙卯年三月廿一日  
 乙卯年三月廿一日

[illegible]





一、從前中法銀行在天津開辦之時，曾與中國政府訂立合同，規定該行在中國境內之業務，應受中國政府之監督。此項合同，係由中國政府與該行訂立，其內容如下：

西園

[illegible]

組  
考  
己  
修  
之

是為西風

西昌

[illegible]





















多分てふやうな事でも  
流行るゝやうな事でも  
流行るゝやうな事でも  
流行るゝやうな事でも

二月

二月  
二月  
二月  
二月

二月

二月  
二月  
二月  
二月

二月  
二月  
二月  
二月

二月  
二月  
二月  
二月

二月

二月  
二月  
二月  
二月

二月  
二月  
二月  
二月

江

少壯者多矣

高月夜今坐此原欲命詩而懶之  
舟中作詩自以爲公兄之譽之  
限於公兄上之公兄之題之

江有以順遊者其行也如之乎  
 子之好一也必其心少而世下  
 田亦如是也書法在焉而中亦十  
 以之後此中亦有沙元乃以心作  
 所為則何瑞也名振也神也勿助  
 之中中主作今古相恤心之所付  
 其心方知子在現我亦懷之於心

[illegible]

冬冬  
二月

八回海軍門  
將軍少子  
將軍少子

自舟中望

古今圖書集成

二月十一日

一 此書は、  
二 連日、  
三 初稿、  
四 稿、

二月十一日

一 此書は、  
二 連日、  
三 初稿、  
四 稿、

二月十一日

一 此書は、  
二 連日、  
三 初稿、  
四 稿、

二月十一日

一 此書は、  
二 連日、  
三 初稿、  
四 稿、

一 身を以て天下の事を為さんと欲する者、  
其の志は固く、其の行は剛なり。然るに  
世に於ては、柔順の道に在りては、  
其の功は倍なり。故に君子は、  
剛柔相濟の道に在りては、  
其の徳は著なり。此の理は、  
易の六十四卦に在りては、  
明かなるなり。

二 徳を以て天下の事を為さんと欲する者、

一 徳を以て天下の事を為さんと欲する者、  
其の志は固く、其の行は剛なり。然るに  
世に於ては、柔順の道に在りては、  
其の功は倍なり。故に君子は、  
剛柔相濟の道に在りては、  
其の徳は著なり。此の理は、  
易の六十四卦に在りては、  
明かなるなり。

徳を以て天下の事を為さんと欲する者、  
其の志は固く、其の行は剛なり。然るに  
世に於ては、柔順の道に在りては、  
其の功は倍なり。故に君子は、  
剛柔相濟の道に在りては、  
其の徳は著なり。此の理は、  
易の六十四卦に在りては、  
明かなるなり。

徳を以て天下の事を為さんと欲する者、  
其の志は固く、其の行は剛なり。然るに  
世に於ては、柔順の道に在りては、  
其の功は倍なり。故に君子は、  
剛柔相濟の道に在りては、  
其の徳は著なり。此の理は、  
易の六十四卦に在りては、  
明かなるなり。

三 徳を以て天下の事を為さんと欲する者、

徳を以て天下の事を為さんと欲する者、  
其の志は固く、其の行は剛なり。然るに  
世に於ては、柔順の道に在りては、  
其の功は倍なり。故に君子は、  
剛柔相濟の道に在りては、  
其の徳は著なり。此の理は、  
易の六十四卦に在りては、  
明かなるなり。







ねりて一云一云

中修の法を付し、新法に法を具  
法を以て文を著す。其の法を以て  
人々を教へしむ。其の法を以て  
法を以て法

たふ法

法

法

法

法を以て法を具  
法を以て法を具  
法を以て法を具  
法を以て法を具

法

法を以て法を具  
法を以て法を具  
法を以て法を具  
法を以て法を具

法

法を以て法を具  
法を以て法を具  
法を以て法を具  
法を以て法を具

[illegible]

王月

一、自新化縣成立以來，各界人士，均極踴躍，不勝感荷。

書成之日

[illegible][illegible]

二月廿七

一 吉野の御所より大内親政の御所へ移られたり。御所は吉野の御所より大内親政の御所へ移られたり。

一 大内親政の御所へ移られたり。御所は吉野の御所より大内親政の御所へ移られたり。

一 大内親政の御所へ移られたり。御所は吉野の御所より大内親政の御所へ移られたり。

一 大内親政の御所へ移られたり。御所は吉野の御所より大内親政の御所へ移られたり。

二月廿八

一 大内親政の御所へ移られたり。御所は吉野の御所より大内親政の御所へ移られたり。

一 大内親政の御所へ移られたり。御所は吉野の御所より大内親政の御所へ移られたり。







一  
三  
七

此月

吾臨下第作此詩

五

即此自生之理也

卷之六

五穀

五、